



宮城

「毛糸にふれば、みんなしあわせ」 「しあわせを編む仲間」の輪を 気仙沼から全国へ

梅村マルティナ
気仙沼FSアトリエ

震災直後、京都に住んでいる梅村マルティナ氏は編み物をしてもらおうと被災地に毛糸を送った。被災の悲しみを忘れるために何かしたいと思う人たちにピッタリだと考えたからだ。そうした中、気仙沼の小原木中学校避難所から「もっと毛糸を送ってほしい」というリクエストを受ける。その避難所で復興のシンボルとして誕生したのが、毛糸で作られた「小原木タコちゃん」だ。震災後1年、このような活動を経て、梅村マルティナ気仙沼FSアトリエ(宮城県気仙沼市唐桑町港、梅村マルティナ社長、0226・31・3501)は、「仮設住宅で暮らす人々の働く場所をつくりたい」との思いから、毛糸製品製造・販売会社として設立された。

取扱う毛糸は『魔法の毛糸』、同社が正規販売代理店となっているドイツ生まれの毛糸Opalシリーズ。メリヤス編みで一本の毛糸を編み進めていくだけで、次々と綺麗な柄が表れてくるのが特徴で

ある。特に大人気なのが「腹巻帽子」だ。テレビや新聞など数々のメディアでも紹介されているこの商品は腹巻の形をしており、フード、ネックウォーマー、ぶら下げ帽子、リバーシブル帽子とひとつで何役もこなし非常に使い勝手がよい上に、カラフルでかわいらしいデザイン。

このような魅力あふれる商品の他にOpalシリーズの毛糸の販売も行っており、自分で作品をつくることもできる。また、同社限定マルティナ・オリジナルカラーと気仙沼オリジナルカラーも取揃えている。「気仙沼・森」「気仙沼・海」は気仙沼の美しい自然や海を連想させるカラーリングとなっている。

小原木タコちゃんや腹巻帽子、毛糸などの購入はホームページ(<http://kfsatelier.co.jp>)内のWEBショップへ。ホームページで編み方も紹介され、おためしセットや靴下編み方セットなどもある。で、ぜひ貴方も「しあわせを編む仲間」の輪にどうぞ！



梅村マルティナ社長



オリジナルカラー毛糸と腹巻帽子



選ぶのが楽しくなるカラフルな毛糸